

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 愛信芳主会	代表者	塚本恵里香	法人・ 事業所 の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。 「施設理念」として①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する ⑥地域の一人として活動する
事業所名	丘の上倶楽部	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	3人	人	人	人	人	2人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①各改善計画について、職員会議などで毎月評価・見直しを行う。 ②雇用形態の違いなどで、地域や家族との関わりが持たなくても、施設で働く職員として意識を持つよう教育を行う。	①自己評価の全ての項目について毎月行う事は出来なかった。 ②雇用形態の違いで業務内容が変わるため、地域や家族との関わりが薄い職員が出てしまう。	情報が集まり難い項目については、質問形式にするなどはどうか？	事業所自己評価の中の「以前の暮らし方10個」を質問票形式の物を作って記入する。地域の活動やイベント、行政や各事業者との会合などに複数の職員が参加出来るよう調整を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	①移動式看板は、適時内容を更新して設置を継続する。 ②玄関付近にも案内を設け、気軽に訪れてもらえるよう周知する。	①②看板の管理が出来ず、そのままとなってしまった。	特になし	移動式の看板は内容を更新する。季節や時間によっては玄関を開放し、自由に出入りできる環境を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	①SNSやホームページを活用し、利用の有無に関わらず、介護の相談窓口として気軽に訪れられるよう周知する。	ホームページは継続して運用しているが、新たにSNSへの取り組みが出来なかった。	近くに住んでいても事業所の事を理解している方が少ない。 地域で何か困りごとが有った場合は、包括へ相談する事が多く、直接、事業所に相談する事は少ない。	「困りごと相談」を事業所でも行える事を回覧板や掲示板にて告知してもらう。 SNSの運用を進めて、困りごとを相談出来る事を周知する。 地域の行事への参加は継続する
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①地域のイベントや行事の情報を収集し、可能なものには参加をさせてもらう。 ②所在地には町会が無いため、近隣の町会にも相談できる場所として周知を行う。	①行事やイベントへの参加は出来た ②併設特養から各町会へ「困りごと相談」の回覧板を出してもらった。	地域や外部で行われるイベントなどに利用者と外出している。 利用者以外の方との関わりは無い。	地域の困りごとや心配な方について、気軽に相談出来る事を周知する。 利用者の外出や、イベントへの参加を継続する。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①運営推進会議の参加者を増やす。 ②運営推進会議にて少なくとも1件は個別ケースの点検を行う。	①新たに地域の民生委員さん1名が参加をしてくれた。 ②個別ケースや事例の検討は毎回行う事が出来た。	地域の民生委員1名に参加していただく事となった。 個別ケースの紹介や課題などを会議毎に提示している	運営推進会議に利用者又は、家族の参加を促す。(年間を通して参加できるようにする) 運営推進会議で出た意見について、取り組みや結果を報告する。
F. 事業所の防災・災害対策	①運営推進会議の中に防災計画・BCPへの説明を入れる。(年度内に1回以上) ②運営推進会議にて、防災訓練への案内や防災訓練の報告を行う。	①②防災計画やBCPの案内は出来なかった	防災計画、BCPについては説明の機会を設けなかった。 事業所の防災訓練への参加案内をしていない。 所在地に町会は無く防災訓練も無かった。	防災計画・BCPについて開示する。そのうえで、有効な意見については取り入れていく。 防災訓練の案内を各委員に送付する。 備蓄品などの準備状況を開示して、災害時の参考にしてもらう。